

挑戦する企業

株式会社シンクスコーポレーション

創業時から付加価値創出にこだわり 高精度の非鉄金属材料を短納期で提供

さまざまな製造装置や機械で使われるアルミ・ステンレスなど厚板の加工・販売を行い、創業24年にして売上高105億円を達成した。単なる材料ではなく「製品」を提供したいという思いで構築されたビジネスモデルは、「顧客のために何ができるか」を使命とし、進化し続けている。

アルミやステンレス材の厚板はあらゆる装置・機械類の製造に使われている。株式会社シンクスコーポレーションは、この厚板を顧客の要望に合わせて切断・加工処理などを行って納品する、工業社会の土台を成す会社だ。国内では株式会社神戸製鋼所が品質の高い厚板を生産しているが、その厚板部門の販売先としてトップシェアを誇る。取引先は非鉄金属の流通業者と機械・部品メーカーであり、半導体製造装置、有機ELパネルなどのフラットディスプレイ関連が主だ。

「メーカーは生産コストを抑えるためになるべく短時間で精度の高い加工をしたい。当社ではその要望に応えた質の高い材料を提供しています。お客様は、当社から仕入れた材料をそのままマシニングセンタ^{*1}に載せるだけで加工できるわけです」と、同社3代目代表取締役社長の石坂敬氏は語る。

半導体製造装置の材料には極めて高い精度が求められ、必要なサイズにカットすればいいというものではない。側面と表裏を含めて6面の平坦度、平行度、直角度に狂いが生じると、メーカーは加工の前作業に時間を取られてしまう。従来は、各メーカーで前加工専門の職人が汎用機で仕上げをするのが一般的だった。だが、汎用機を使える職人が減ってきたため、同社が前加工不要な高精度の材料を提供することで、市場を

切り拓いてきたのだ。

同社が一般的に保証する寸法精度は±0.05mm、最大で±0.01mmまで対応し、切断後の反り保証も行っている。さらに業界で初めて、すべての商品に対して「ISO 1」(製品の標準基準温度に関する国際標準)に準拠した20°C±2°Cの温度管理体制を確立し、「寸法精度保証」を実施。アルミは温度によって鉄の約3倍も膨張・収縮するためだ。

「夏場であれば朝と昼でコンマ数mmも変わる。温度管理は簡単ではないので、現在でも同業他社は同じ保証はできません。こうした保証ができるのは現場の力です」

温度管理された検査室で確認しながら寸法保証することは現場の大きな負担となり、生産性も落ちるため、作業プロセスをなかなか統一できない。同社では手順を守った質の高い仕事を行うため、顧客目線による作業の重要性を常日頃から社員に意識づけしているという。

また、同社の差別化戦略で目立つのがシステムの整備である。創業当初より、少数精銳での運営を目指し、合理化された受発注システムを独自につくり上げてきた。これによって、受注から発送まで効率化を進め、ミスなく短納期を実現できる。



オリジナルの専用機械を揃え、
高精度、短納期を実現



業界初のISO基準に基づくフライス加工品の温度
管理を実施



J2リーグ所属のSC相模原のスポンサーとして、
地域とのつながりも大事にしている

さらに、これも業界初の「WEB見積もりシステム」を2005年という早い時期から提供してきた。従来から、もっと早く見積回答がほしい、営業時間外でも見積額を知りたいという要望があった。そこで取引先企業に対して365日24時間対応のWEB見積もりサービスを開始、顧客からは使い勝手がいいと好評を得ている。

単なる材料ではなく付加価値のある 「製品」を提供したい

同社は1997年の創業時から「クオリティ」「スピード」「リーズナブル」をポリシーとして顧客への付加価値提供にこだわってきた。

「私たちの仕事は業界で“材料屋”と呼ばれていますが、創業時から材料ではなく『製品』を提供したいと強く思っていました。これは創業した4人の共通した願いです。そのために加工精度(クオリティ)や納期(スピード)にこだわり、フライス盤^{*2}などの加工装置はすべて材料加工に特化した当社オリジナルの機械を使っています。設備投資は必要ですが、それが当社の生命線です。その上で、適正価格(リーズナブル)をいただき、決して価格競争はしません」

同社は初代社長の柴崎安弘氏、2代目の服部淳一氏、3代目の石坂氏と現在相談役の成沢勝行氏の4人で創業した。もともと、4人とも老舗の非鉄専門商社に勤務しており、全員営業畑の出身だ。

「当時、勤務していた会社は流通業者が主な取引先で、全国展開していました。しかし、バブル崩壊を機に営業方針が転換していった頃、柴崎と私が酒の席で盛り上がり、『お客様のための、いい会社をつくろう』と意気投合したのです」と、石坂社長は笑う。

この企てに服部氏と成沢氏が加わり、さらに

「若い社員が多いため、自分たちで考える自主性を育てたい。少人数プロジェクトをつくることで問題解決に取り組ませています」と話す代表取締役社長の石坂敬氏

Corporate Profile

代表取締役社長 石坂 敬

本 社 神奈川県愛甲郡愛川町中津桜台4057-2

創 業 1997年4月

売 上 高 105億円(2021年3月見込み)

従業員数 350名(うち正社員280名)

<https://www.shinx-corp.co.jp/>

*1 金型や金属部品の製作に使われる工作機械

*2 金属などの加工に使われる工作機械の一種



神奈川県愛川町の本社工場、近隣には第二、第三工場も構える

数人の部下が行動をともにしてシンクスコーポレーションを旗揚げした。社名は未来永劫輝き続けるという願いを込めて英語の「shine」のeをxに替えて「shinx」(シンクス)とした。偶然にもshinが4人の頭文字だったのは、運命的である。

「4人で話し合い、今に至るビジネスモデルと営業方針をつくり上げました。幸い、創業時から多くのお客様が私たちを支持してくれて、順調に立ち上がり、注文がさばききれないほどでした」

その後も順調に業容拡大し、2012年には関西営業所、関西工場も開設した。会社の規模が大きくなり、社員の気持ちにゆるみが出始めたところで就任した石坂社長が行ったことは、「なぜお客様から信頼されるのか」「お客様のために何ができるのか」を考えるという社員一人ひとりの意識改革だ。

「企業は永続性が大事。100年企業を目指し、お客様の要望に耳を傾けながら、これからも革新していくたいと考えています」



◎取材・文／吉村克己 撮影／寺澤洋次郎
写真提供(P.18左、中央)／株式会社シンクスコーポレーション